

「新型コロナウイルス感染症の流行の拡大が看護職に与える心理的影響に関する調査」の結果の一部が新聞に掲載されました！

朝日新聞
(2021年2月11日)

15 宮城 13版S 2021年(令和3年)2月11日(木) 享月 日

看護師離職考えた42.9% 自信失った42.3%

東北大調査 コロナ禍精神面悪化

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、病院で働く看護師の精神面の健康状態が悪化していることが、東北大のオンライン調査で分かった。約4割が「仕事を辞めたいと思った」「自信がなくなった」と答えており、感染拡大が離職を促す恐れがあるとしている。

東北大学院医学系研究科の朝倉京子教授らのグループは昨年12月の全国の感染者数をもとに、10万人あたりの感染者数が相対的に多い地域と少ない地域(計8都道府県)から無作為に病院を抽出。勤務する約1万人の看護師にオンラインで調査し、2273人から回答を得た。

新型コロナウイルスの感染拡大で、看護職の仕事を辞めた

いと思ったことがあるかを尋ねたところ、「たびたびあった」が15.6%、「ときどきあった」が27.3%で、42.9%が離職を考え

た経験があったという。さらに、仕事を続ける自信を失ったことがあったかを聞いたところ、「たびたびあった」と「ときどきあった」を合わせると42.3%になった。

「K6」と呼ばれる指標で、うつや不安障害が疑われるとされる10点を超えた看護職の割合は39.8%で、平時の調査(14年)の20.8%を大きく上回った。朝倉教授は「看護師がぎりぎりとなっている状態が続かないよう、少しでも早く感染者を減らす努力を社会をあげて進めることが大事」と指摘する。(高橋昌宏)

宮城

看護職「辞めたい」4割

コロナ影響 精神的ケア訴える 東北大調査

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、病院に看護職で勤務する人の約4割が「仕事を辞めたい」と考えた経験があり、精神面の健康状態も悪化傾向にあることが、東北大が全国8地域を対象に実施したオンライン調査で分かった。研究グループは看護職の精神的ケアの必要性を訴えている。

回答した看護師や准看護師のうち、約8割が新型コロナウイルス感染者の受け入れ医療機関に勤務。感染拡大の影響で「仕事を辞めたい」と思ったことがあるか」との問いに対し、「たびたびあった」と回答した割合は15・6%、「時々あった」は27・3%だった。回答者の精神面の健康状態を「心理尺度(K6)」

と呼ばれる指標で測定した結果、気分障害や不安障害の可能性がある「10点」を超えた割合は39・8%だった。研究グループが2014年に看護職を対象に実施した同じ調査の結果(20・8%)を大きく上回った。調査した大学院医学系研究科の朝倉京子教授(看護管理学)は「感染者の少ない地域でもコロナ禍で医療現場に負担が掛かっている。看護職への総合的な支援が必要だ」と指摘する。調査は1月、100以上の病床がある病院に勤務する看護職1万人を対象に実施。回答率は22・7%だった。平均年齢は40・2歳で、女性が9割以上を占めた。対象8地域の都道府県名は明らかにしていない。